

アメリカ留学を終えて

五百川優子

私がアメリカ留学を決意した理由は、自分の英語力を上達させたかったから、アメリカの文化に触れたかったからです。海外旅行ならいつでも行けますが、語学留学となると今しか行けるチャンスがありません。英語が好きで、もっと英語に触れたいという気持ちから、留学に行くことに迷いはありませんでした。

・英語の勉強

これからの4ヶ月間に期待と不安を抱きつつ、長時間フライトに耐えてアメリカに着いたころには既に夜で、一刻も早く眠りたかったのを覚えています。最初の1週間はイントロダクションのようなもので、学校内の説明、アカウントの作成、学生証の発行などの各種手続きを済ませ、クラス分けのためのテストを受けました。私はAクラスに所属し、クラスには日本人の他に中国人2人、韓国人2人、サウジアラビア人1人がいました。外国人の友達など今までいたことがなく、またこの頃はステレオタイプも強かったのでクラスメイトと仲良くできるか本当に不安でした。違う国同士で話そうと思うともちろん英語を使う以外コミュニケーションをとることはできず、英語を第二言語として勉強している生徒が所属するクラスだったのでお互いの言いたいことがなかなか伝わらずに苦労しましたが、クラスメイト達の国の文化や好きなことについて話すことはとても楽しく、充実していました。授業はReading & Writing、Listening & Speaking、Grammar、TOEIC、前期のみCultureがあり、1コマ50分で5限までです。月曜から木曜の3時までクラスがあり、前期のみ金曜の午前中にCultureのクラスがありました。毎日宿題に追われ、小テストも頻繁にあったので毎日の勉強量は一段と増えました。授業はもちろん全て英語なので、最初の方は先生が何を言っているのか理解できなかつた部分もありましたが、とてもはっきりとゆっくり話してくれたおかげで、毎日の授業の内容や宿題の範囲などすぐにほとんど理解できるようになりました。今思い返しても、先生方の英語はとてもゆっくりで簡単な単語を選んでくれていたのだと実感します。勉強は授業だけではありません。週1回、イベントコーディネーターの布林ダが決めた必修のイベント+自分で行くイベントと最低週1つ決めて行かなければなりません。しかし、アメリカの文化を学ぶ重要なものであり、またアメリカ人はイベント好きのため、深夜までかかるイベントもありましたが、楽しいものばかりでした。中にはテスト前に学生のストレスを癒すイベントもあり、ゲーム大会やアニマルセラピー、マッサージなどもありました。

・食と South Complex

アメリカ留学の中で一番思い入れの深い場所は、私が4ヶ月間過ごした **South Complex** だと言っても過言ではありません。とても綺麗で住みやすい寮でした。ベッドの高さが腰の位置まであったので昇り降りが大変でしたが、学習机も使いやすく、広さも十分で、そして暖かいことは何よりも嬉しかったです。アメリカは硬水なので肌に合わず、肌荒れが絶えなかったのには苦労しました。洗濯機が壊れたり、お湯が出なくなったり時々不具合が起きましたが、住民も親切でとても快適に過ごせました。サウスにはキッチンもあり、日本から持って行ったレトルト食品やカップ麺も簡単に作ることができました。ここで少し戸惑ったことは、アメリカの電子レンジは温度が高く、調理時間は記載されている半分ほどで十分温まるので様子を見ながら温めなければならなかったことくらいです。本物の日本食が食べたくなったらレトルトを温めていましたが、普段食事を済ませるところは **Union** と呼ばれる施設です。バイキング形式でピザ、生野菜、ハンバーガーなど自分の好きなものを選んで食べることができます。しかし日本の生野菜を食べ続けてきた身としては、アメリカの生野菜はあまり美味しくなく、一時胃が弱っていた時に食べたら腹痛を起こしてしまいました。ですが体質的に野菜を摂らないと口内炎ができたりしてしまうので食べないわけにはいかず苦労した記憶があります。デザートも最初はとても美味しそうに見えたのですが、甘すぎるアメリカのデザートを経験するうちにすべてが甘すぎるものに見えてしまいました。しかしアイスはとても美味しく、授業終わりにアイスを食べるのが日課になった期間もありました。主に食べていたものはピザ、ハンバーガー、ブリトー、フレンチフライなどでしたが、金曜の朝食の時間のみスムージーを飲むことができました。全体的に味の濃いアメリカ食の中で、このスムージーはとてもさわやかで一週間の楽しみでもありました。**Union** の二階にはレストランがあり、ベーグル、日本食、サンドウィッチなどを有料で食べることができます。日本食と銘打ってはありますが、アメリカ人向けの日本食で照り焼きチキンなどはとても味が濃い上に白米が日本のものとはまるで違うので好んで食べることはありませんでした。ここには箸が置いてあるため、定期的に訪れては箸を数膳いただいていた。ここで思ったことは、箸を使って食事をする人があまりにも少なかったことです。種類は少ないものの、寿司も置いてあったのにほとんどの人はスプーンやフォークを手にとっていました。**Union** 以外にも少し寮から離れた場所にとっても美味しいピザ屋があり、**Union** のご飯に飽きてはそこに赴いていました。

・イベント

アメリカ人はとにかくイベント好きです。日本は花見、海水浴、紅葉、スキーなど、四季の移ろいを楽しみますが、アメリカではイベントの“その日”を楽しみ、楽しむために準備をします。9月から12月の間でも、**Homecoming, Halloween, Thanksgiving** があり、それらに向けて盛大に準備をします。本番の日までいることはできませんでしたが、**Christmas** の準備にも力を入れます。10月ともなれば家の前にはカボチャが並び、12月に入ればクリスマスツリーを飾ったり、サンタの帽子をかぶる人があられれたりします。初めて本場のハ

ロウインに参加することができ、仮装した子供たちにお菓子を配ったり、自分たちで仮装をしてパーティーをしたりしました。寮を使ったホーンデッドハウスもありましたが、日本のお化け屋敷とは雰囲気が異なり、モンスターのメイクをした学生が凶器を持ちながら叫び笑うといったものでした。他にも細々したイベントはありましたが、一番思い入れの強いイベントは Thanksgiving です。5日ほど学校が休みになり、寮も閉まります。その間ホストファミリーにお世話になるのですが、ホストファミリーとご飯を作ったり、親戚一同が介してのんびり過ごしたり、とても充実した一週間でした。Black Friday と呼ばれる金曜日があり、この日は一言で言えばとても大きなバーゲンセールです。Walmart という大型スーパーがあるのですが、そこで売られる商品が通常だとありえない値段なので近隣の住民はこの日に駆け込み、見ただけでも普通の何倍という客数でした。ホストファミリーの実家であるアイオワ州に行ったり、豪勢な夕食を食べたりしました。Stuffing や Turkey といった、アメリカの伝統的な Thanksgiving の料理を食べることができたのはとてもいい経験です。



・お世話になった方々

まず何よりもお世話になったのは、先生である Mrs. Hardee, Mrs.K, Dr.Foot です。とても丁寧でわかりやすく授業を進めてくれました。毎日課される課題の量には悩まされましたが、きちんとこなせる量が計算されていたのだと実感しています。オンラインでやる課題も少なくなく、アメリカがネット社会であることを実感できました。また、授業を通して、ジェンダーや人種差別など、アメリカで現在課題になっていることや、黒人、ヒスパニックなど、差別を受けてきた方々がどうやってアメリカで市民権を得てきたかの歴史などを学ぶこともできました。特に人種差別は、日本ではあまりなじみのないことだったので、そのような問題に触れることができたのは、自分の価値観を広げる助けになりました。授業中、また授業外で、クラスメイトのことを語れずにはいられません。特に韓国人の Soyeong は日本の歌手、アニメが好きで、最初こそ彼女はシャイなのであまり話すこともありませんでしたが、留学生活も残りわずかとなる頃には、授業終わりに一緒におやつを食べに行くこともし

ばしばありました。同じ寮では、日本のゲームが好きで日本にとっても興味があり、自分でジャパニーズネームを作るほど日本が好きなミノルと、毎週のように日本のアニメ、ゲームのことについて話しました。ミノルは私が話す拙い英語でも真剣に聞いてくれて、ミノルと話すときはだんだん自分の緊張が解れていくのがわかりました。授業の一環ではありましたが、週に2回、日本人2,3人に対し1人のアメリカ人でカンバセーションがありました。そのカンバセーションパートナーが **Samantha** です。Samantha はとても穏やかで優しく、アメリカの様々なことについて教えてくれました。またアメリカのことだけでなく、日本ではこうする、など私たちにも話す機会を与えてくれたりして、とても楽しい時間をすごすことができ、このカンバセーションの時間が楽しみでもありました。そしてホストファミリーの **JoDee** には感謝してもしきれません。Thanksgiving 自体は約1週間だけでしたが、その期間以外にもカンザスシティに連れて行ってもらったり、ハリーポッターシリーズを全巻見たり、一緒にクリスマスツリーを飾り付けたり、クリスマスプレゼントを貰ったり、一緒に折り紙を折ったり、一生忘れることのできない思い出を貰いました。海外旅行でアメリカに行くことはできます。しかしホストファミリーと過ごすなんてことは、もう一生できない可能性の方が高いのです。私が、英語が不自由なせいで話せなかったこともたくさんあります。しかし一緒に過ごせたことはどれも最高の思い出です。



・まとめ

アメリカでの生活は、正直サバイバルで、楽しいことばかりではありません。しかしそれと同じくらい楽しくて、大切なことを学ばせてもらいました。今まで自分の価値観がいかに狭かったか、どれだけステレオタイプを持っていたかを改めて思い知らされました。アメリカでの経験を活かし、人生に役立てて生きたいです。